

平城宮跡資料館 2011年度の展示を振り返って

1 はじめに

2010年にリニューアルオープンした平城宮跡資料館は、新たな年度を迎えた。本稿では、2年目にあたる2011年度の活動を振り返り、今後の指針としたい。

2 考古科学コーナーの開設

新規常設展示として、「考古科学コーナー」を増設した(図1)。奈良文化財研究所埋蔵文化財センターが調査・研究している「保存科学」、「環境考古学」、「年輪年代学」、「測量と探査」を紹介するコーナーである。

コンセプト コーナー開設に際して埋文センターの各研究室と協議を重ね、以下の点を重視した。

- ①わかりやすい展示・解説を心がける：難解になりがちな理数系の内容を、やさしく説明する。
- ②「体験」の要素を取り入れる：子どもが興味を持ち、楽しみながら学べるような体験型の展示にする。
- ③単なる科学の解説ではなく、文化財の研究や保存に活用されていることを示す：科学がどのように文化財の研



図1 考古科学コーナー

究・保存に活用されているか、具体例をあげて紹介することで、自然科学系博物館の展示と差別化を図る。

展示構成 資料館北棟の西半部分に、4つの研究室コーナーを設置した(図2)。親子連れで利用することを想定し、各分野で大人向け解説パネルと子ども向け体験仕器がセットになるよう配置した。

大規模な企画展を実施する場合を考慮し、展示パネル・展示仕器、壁面はすべて可動式とした。

子ども向け展示 楽しみながら科学のしくみや文化財との関係を学べるよう、さまざまな工夫を凝らした。

親しみやすい雰囲気にするため、仕器の形状はイス型に統一した。カラーのイラストや図をふんだんに使い、文字のフォントも楽しいイメージのものにした。

各仕器に1～3つの体験展示を設置した。体験の内容は、セットとなる大人向け解説パネルの内容から一部を抜粋する、もしくはそれを補足する内容を選んだ。身近な素材(フリーズドライ食品、木、水、ライト、石、ペン、プ

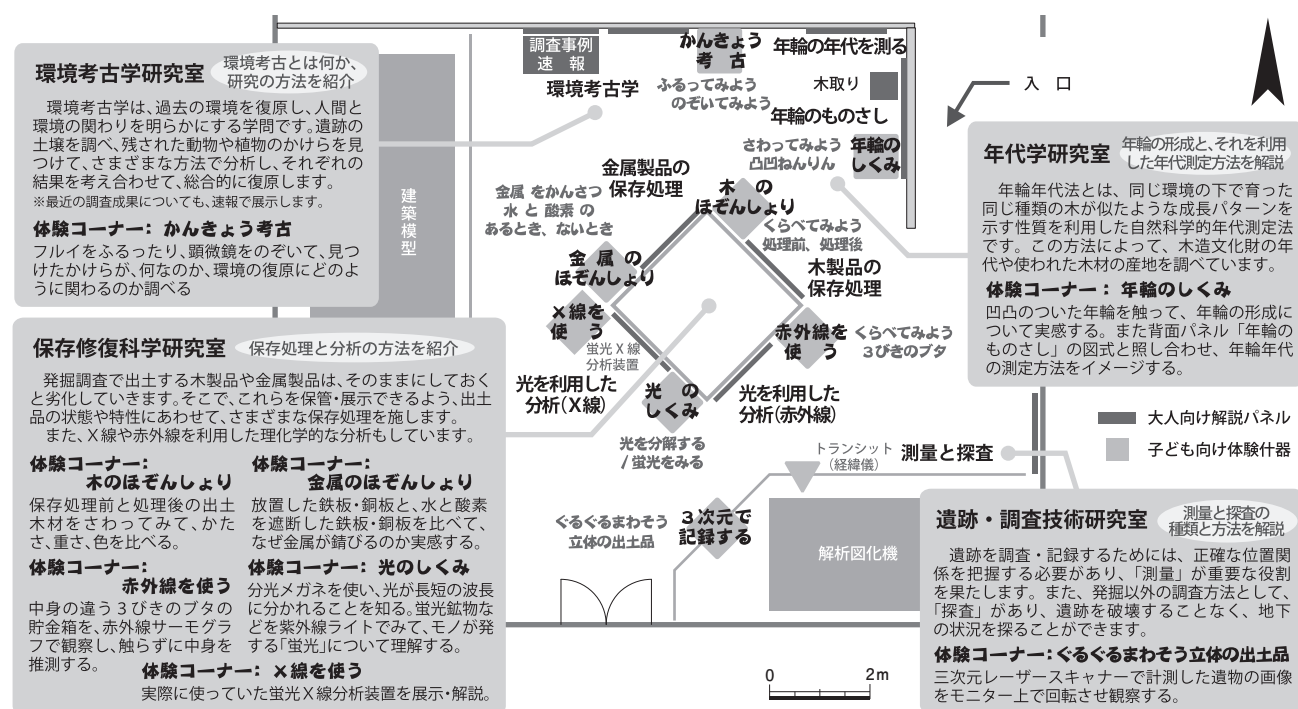


図2 平城宮跡資料館 考古科学コーナー平面図



図3 考古科学コーナー 子ども向け体験仕器

タの貯金箱など)を使って構成した(図3)。

開設以来、資料館のなかで歴史にそれほど興味のない人でも楽しめるコーナーとして、アンケートをみても満足度が高い。とりわけ子どもの反響が大きかった。

3 企画展の記録

2011年度は、3つの企画展を開催した。ここでは、会期の終了した2つの企画展について所見を述べる。

春期企画展「発掘速報展 平城2009・2010」(2011.2.19～5.8) 毎年おこなっている発掘速報展。一昨年は資料館リニューアル工事により実施しなかったため、今回は2009・2010年度2年分の平城宮・京の発掘調査成果(合計9遺跡)を紹介した(図4)。以下の3つの事項に重点をおき、展示を実践した。

- ①発掘の成果をわかりやすく解説する：解説パネルの項目を簡潔にし、遺跡の概要や検出した遺構・遺物、調査成果がすぐわかるようにした。「わかったこと」だけでなく「わからなかったこと」も項目をつくり明確にした。
- ②成果とともに調査・研究の過程を知ってもらう：成果があがるまでにどのような調査・研究をしているのか示すため、発掘作業や調査過程のスライドショー、土層断面図作成や寄生虫卵実見などの体験を取り入れ、調査・研究の過程を具体的に紹介した。解説パネル「担当者の声」の欄や週1回で実施した発掘担当者によるギャラリートークでも、調査時のエピソードや苦労話を披露した。
- ③知識を得るだけでなく自身で体験・考えてもらう：解説パネルを読んで終わりにせず、五感で体感し、考えを膨らませ古代に想いを馳せていただけるように、檜扇を組む体験や鎮壇具のアイデア掲示板など、体感したり、自由に発想できるコーナーを提供した。

秋期企画展「地下の正倉院展—コトバと木簡」(2011.10.18～11.27) 年に1度の本簡の特別公開展示。本年度は、木簡に書かれた「文字」に焦点をあて、語順や万葉仮名、書きぶりや字体、合わせ字など、万葉びとが中国の文字「漢字」を習得し、使いこなしていった努力と工夫の跡



図4 春期企画展のようす

をたどった(図5)。

会場は、今回のテーマである「文字」を意識した造作をおこなった。天井からさまざまな字体や合わせ字のパネルを連続して吊るし、字に囲まれた空間を造り、ビジュアルで感覚的に文字の世界を感じ取れるようにした。

導線は蛇行させ、文字の足跡をたどるイメージにした。コーナーの仕切の一部には正倉院宝物の屏風(模造品)を使用し、奈良時代の雰囲気を演出した。

4 体験・参加型展示 諸考

体験・参加することで、展示の内容をより深く理解することができ、記憶に残るものとなると考え、リニューアルオープン以降、資料館ではさまざまな体験・参加型展示をおこなってきた(表1)。これまでの展示を通して、体験・参加型展示について考えてみる。

体験の内容と方法 体験・参加型展示をする際は、メイン展示の展示構成の趣旨とリンクした内容にし(例えば、「発掘速報展 平城 2011」では「遺構」がメインのため、床展示の遺構平面図をじっくり観察しておこなう体験を企画)、触る・見る・比べる・調べるなど五感を働かせた動作をすることで、先に読んだ解説内容を実感として理解できるようフィードバック効果を意識した。どの体験も研究の調査方法にゲーム感覚を取り入れたものにした。

入館者の好み 入館者のアンケート(図9)によると、発



図5 秋期企画展のようす



図6 鎮壇具のアイデア掲示板(春期企画展)



図7 万葉仮名の体験(秋期企画展)



図8 注意事項の表示(考古科学コーナー)

掘速報展・考古科学コーナーともに、ひとつの体験展示に極端に人気が集まるということはなく、さまざまな体験コーナーに分散している。そのなかでも人気が高いコーナーは、視覚的にインパクトのあるものや、体験の達成感が高いものが多いといえる。

会場で入館者の様子をみていて気付いたのは、こちらが子どもを想定して設置した展示を、大人も楽しんで体験していることである。木簡展で実施した子ども向けワークシートや万葉仮名体験は、その傾向が強かった。展示への参加 参加型の展示では、「わたしの平城宮跡」で140件、「鎮壇具のアイデア掲示板」で205件もの記入があった。無記名の書き込みにすると、多くの人が抵抗なく参加できることがわかった。会場のコメントは日々追加され、それを新たな入館者が目にするという現在進行形の展示を実現することができた。

ハンズオンによる破損 直接手で触れる体験展示は、消耗や破損がつきものであるが、実際に設置してみるとさまざまなことがわかった。考古科学の子ども向け体験什器には、体験方法や注意事項をあらかじめ表記していたが、入館者(特に子ども)は文字をほとんど読まずに触

ることが多い。手に取る用具に目立つイラストやマークを直に表示し注意を促すと、損傷はだいぶ軽減した。

しかしあきらかに故意にいたずら、用具を片付けない、自由閲覧の冊子を持ち帰る等のマナーに欠ける状況も一部に認められる。展示室にスタッフが常駐できない体制下で、どのような対応が効果的か検討する必要がある。

5 まとめ

2011年度は、展示手法の面でさまざまな試みを実践することができた。次年度はこの経験をふまえ、さらに展示内容についても関係する研究室と協力し、試行錯誤を重ね、充実させていきたい。(渡邊淳子・森先奈々子)

表1 これまでの体験・参加型展示一覧(考古科学コーナーを除く)

会 期	企画展名	コーナータイトル	内 容
2010.7.10～8.31	「平城宮跡 今・昔 一岡田 庄三写真展」	わたしの平城宮跡	各々の記憶に残る平城宮跡の風景をあげ、その風景にまつわる思い出やエピソードとともに記入、掲示する。
2010.9.25～11.7	「天平比の声をきく 地下の正倉院・平城宮木簡のすべ」	赤外線で見える木簡の記帳体験 木簡のデータベース	表面が汚れて墨書が見えない木簡(レプリカ)を赤外線投影装置で観察する。 木簡のレプリカを計測・観察し、記帳する(調査をとり)。 奈良研HP上の木簡データベース、木簡画像データベース等を検索・閲覧する。
2010.11.26～2011.1.16	「測る、知る、伝える 平城京と文化財」	子ども向けワークシート* 木簡の文字を解説	木簡にちなむキャラクターがクイズを出題、会場をまわって問題を解く。 まだ確定していない木簡の釈文解説に挑戦。投稿した人には後日、史料研究室より回答と記念品を送付する。
2011.2.19～5.8	「発掘速報展 平城 2009・2010」	あなたは どう考える? ー どうして魚が入っていたのか、ポストイットに記入し、掲示板に貼りつける。	奈良盆地の小学データベースと万葉歌碑データベースを検索・閲覧する。 三次元レーザーキャナーで計測・図化した土器をモニター上でマウスを使って360度回転させ、観察する。 歩測、巻尺、測距儀、トータルステーションで距離を測り、精度を比較する。
2011.10.18～11.27	「地下の正倉院 展・コトバと木簡」	初級編: 万葉仮名で読み書きしよう! 中級編: 万葉仮名を木に書いてみよう! 上級編: 万葉仮名で4コマ漫画のセリフ(万葉仮名で書いてある)を解説する。 上級編: 万葉仮名で4コマ漫画のセリフ(万葉仮名で書いてある)を解説する。 上級編: 万葉仮名で4コマ漫画のセリフ(万葉仮名で書いてある)を解説する。	興福寺南大門出土の鎮壇具容器になぜ魚が入っていたのか、ポストイットに記入し、掲示板に貼りつける。 壁面に貼った実際の土層断面の写真をいながら、断面実測図を作成する。 東方官衙地区で出土した櫛から判明した紐の通し方を実際に体験する。 糞便土坑の土壌分析プレバートを顕微鏡で観察する。
2012.3.10～5.27	「発掘速報展 平城 2011」	伊勢を探索しよう! 回廊を測ろう! 建物を見よう!	床展示されている遺構平面図上の伊勢の場所を探し、数を数える。 床展示されている遺構平面図(1/10)上で、回廊の幅や大きさをメジャーで測り、実際の長さを出す。 遺構平面図の柱のサイズ、並び、切り合いを観察し、建物線を引いて復元し、各建物の新旧を推測する。

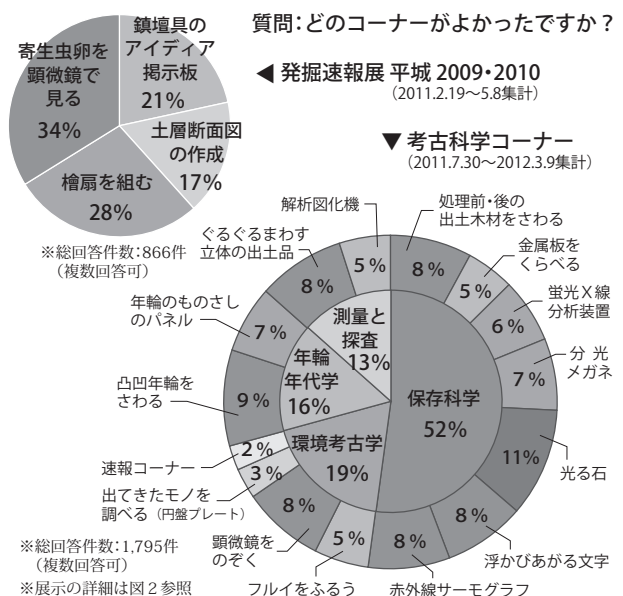


図9 体験・参加型展示 人気度調査(集計は連携推進課による)